文献センター通信

第28号
2014年9月30日
一部100円

アナキズム文献センター「第3回総会」の開催日が決定

アナキズム文献センターの第3回総会を開催します。

この総会は、当文献センターの運営を支えてくださっている会員、協力者の皆さんにこの間の活動の総合的な報告を行い、これからの活動方針を示すために開催されます。

定例総会の開催については、「アナキズム文献センター規約」に最低3年に1回と規定されており（第九条）、前々回が2008年12月に東京・新宿で、前回が2011年6月に大阪でしたので、今回の総会は約3年の間を置いたことになります。

今回の開催地は神戸。前回の大阪に続いての関西での開催となります。重要事項については議題を会員に諮ることになりますが、今回の総会では大きな決定事項はありませんので、この3年間の報告が中心になります。

多くの方のご参加をお待ちしております。

《第3回総会》

◎日時・11月29日（土）14時開場

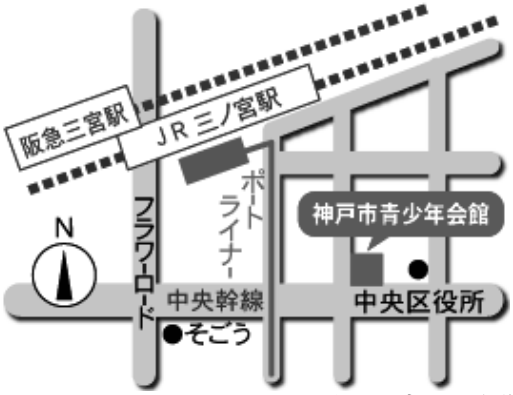
◎会場・神戸市青少年会館（神戸市中央区雲井通5丁目1－2）

◎日程・総会　14時半開始

活動報告、会計報告、事業計画案等

懇親会　17時半開始＊会場近く

※事前のお申し込みをお願いいたします。Eメールまたは郵便でお申し込みください（Eメール及び郵送先は6頁の奥付に掲載）。



インターネットから引用

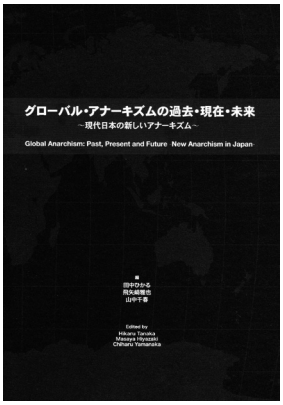
主な内容

文献センターの第3回総会開催決定…1
大杉栄全集が9月より刊行開始…2
バクーニン記念会議参加記（1）…4
カフェに山鹿泰治メニュー誕生…6
平山忠敬氏寄贈リスト（抜粋）…8

『グローバル・アナーキズムの過去・現在・未来～現代日本の新しいアナーキズム』刊行

本誌25号でも報告した国際シンポジウム「グローバル・アナーキズムの過去・現在・未来～世界とアジアをつなぐために」（2013年11月16日、明治大学、ゲスト／ガブリエル・クーン氏）の報告書が刊行されました。編著者3人のほか、栗原康氏、樋口拓朗氏、仲田教人氏による当日の報告やコメント、ガブリエル氏の日本滞在報告など掲載。

◎編著：田中ひかる・飛矢崎雅也・山中千春、発行：関西アナーキズム研究会、A5判、176P（前半は日本語、後半はその英語版）、価格：¥1500、販売問い合わせ先：イレギュラー・リズム・アサイラム（03－3352－6916）



大杉栄全集いよいよ刊行開始!!!

没後九〇年にして編纂された完全版全集

九月中旬、ぱる出版から大杉栄全集（全十二巻＋別巻一）の第一回配本・第二巻が刊行された。四六版・上製本クロス装・函入り四八〇頁に、口絵写真二頁、月報付である。定価は〔本体六八〇〇円＋税〕といささか高いが、昨今の出版事情からするとやむを得ないかも知れない。

刊行予定は今後、第一期として第一～七巻が来年三月まで毎月刊行され、第二期として翻訳巻の第八～十二巻および別巻一が来年末まで順次発刊される予定。

大杉栄の全集は周知のようにこれまで二回、死の直後に近藤憲二の手によってアルス版（発行は同全集刊行会、発売アルス）が一九二五～二六年に全十巻（ただし第十巻は伊藤野枝集）で出版され、戦後の一九六三～六五年にかけて現代思潮社版全十四巻が出ているので、今回の全集は三度目となる。

アルス版は当時の言論弾圧下で発売禁止のおそれから未収録となった作品や伏字が多いなどの時代的制約を避けられなかった。一方、現代思潮社版は新しい戦後世代に幅広く読者を開拓するといった意図をもって編集されたようで、テーマ別の巻構成をとり、表記を現代風に改め、またロマン・ローラン、クロポトキンを除いた翻訳（ダーウィン、ファーブルなど）を割愛している。

その点で今回の全集は、名実ともに全集にふさわしく、初出文章を底本とした時系列構成による完全収録を図っている。「全集の特色」は左に掲げた通りで、いわば没後九十年、三度目の編纂にして、大杉栄の全容を余すところなく網羅した内容となっている。

戦後世代の私などが手にし読み親しんだのは現代思潮社版で、刊行当時は他に大杉の著作は皆無であったし、手軽さと読み易さからすると、時折古本屋さんで見かけるアルス版とは比較にならないほど有り難い存在であった。しかも全集完結後にも時をおいて主要巻は装いを替えて何度か再刊されて読み継がれた。

それに比すると、今回の全集は手軽さと読み易さにおいては一歩引けをとることになろうが、大杉栄の全著作を時系列でほぼ収録し得ている点で彼の全活動を俯瞰しより深く理解する、大杉研究の新たなステップに欠かせない基本文献となることは疑えない。

最後に第二巻の内容を紹介しておこう。時期としては一九一二年十月から一四年九月までで、大逆事件後の「冬の時代」の閉塞感の打破を図り荒畑寒村と創刊した『近代思想』掲載の諸論文が主体である。同誌刊行は新時代、大正デモクラシーの潮流を先取りする果敢な行動となり、同誌上での二年余の言論活動は社会主義運動を画する旗印となった。全二十三冊に及んだ同誌掲載論稿他を網羅している。付された「月報1」の目次を参考までに掲げておこう。

２０１４年夏　大杉栄を再導入すること――高祖岩三郎

限界から「脱出」した男――マイケル・シャワティー

大杉訳「青年に訴う」にひかれて――藤巻謙一

ジョルジュ・パラントをめぐって――渡邊淳也

◆全集の特色

一、大杉栄の全著作を収録、彼の全活動を解明することを基本方針とし、これまでの全集の遺漏を補って、現在考えられる完全な全集をめざした。

一、構成は、著作の時系列による収録を原則として各巻に配置したが、書簡、翻訳書については別にまとめ

た。書簡を収録する別巻には、「著作目録」「略年譜」「索引」等を網羅して便宜をはかった。

一、初出の文章を底本とすることを原則としたうえで、後に単行本として収録された文章をも参照し、伏字・削除等の部分を可能なかぎり復元した。

一、大杉栄研究の現状をふまえ、外国語原典の探索、再録の調査等をおこなうなど、テキスト・クリティークを徹底した。

◆大杉栄全集〈全12巻＋別巻1〉・構成

◉第1巻　一九〇四年七月十七日―一九一二年九月十五日　社会主義運動への参加　市谷監獄より　新兵諸君に与ふ　青年に訴ふ

◉第2巻　一九一二年十月一日―一九一四年九月二五日　『近代思想』の創刊―「冬の時代」からの船出―　奴隷根性論　生の拡充　知識的手淫

◉第3巻　一九一四年十月十五日―一九一六年一月二二日　『月刊平民新聞』の挑戦　『近代思想』（第二次）への回帰　労働者の自覚　築地の親爺　労働運動とプラグマティズム

◉第4巻　一九一六年三月十五日―一九一九年九月一日　労働者の中へ　孤立・転換と「労働運動の哲学」　『文明批評』『月刊労働新聞』　僕等の自負　正義を求める心　獄中記

◉第5巻　一九一九年十月六日―一九二一年十二月一日　第一次『労働運動』―労働運動の重視―　第二次『労働運動』―アナ・ボル協同戦線の模索―　労働運動の精神　社会的理想論　米田博士へ

◉第6巻　一九二一年十二月二六日―一九二二年六月十五日　第三次『労働運動』―アナ・ボル対立から決裂―　二度目の復活に際して　バクウニンの生涯　自叙伝

◉第7巻　一九二二年七月一日―一九二三年十月二五日　総連合大会決裂とロシア革命への批判　日本脱出と最期　トロツキイの協同戦線論　マルクスとバクウニン　日本脱出記

◉第8巻　翻訳第1巻〈ムウア・ルボン・ルトウルノ〉　万物の同根一族　物質非不滅論　男女関係の進化

◉第9巻　翻訳第2巻〈ダーウィン〉　種の起源

◉第10巻　翻訳第3巻〈ローラン・クロポトキン(1)〉民衆芸術論　相互扶助論

◉第11巻　翻訳第4巻〈クロポトキン(2)〉　一革命家の思い出

◉第12巻　翻訳第5巻〈ファーブル〉　昆虫記1　科学の不思議

◉別巻　書簡・資料

◆発行

株式会社ぱる出版
〒160-0011
東京都新宿区若葉1-9-16
TEL・03-3353-2835
FAX・03-3353-2826
http://pal-pub.jp

◆刊行予定

◉第1期　第1巻～第7巻
2014年9月～2015年3月
毎月刊行
定価：各巻・本体六八〇〇円＋税
セット価格・本体四七六〇〇円＋税

◉第2期　第8巻～第12巻・別巻
2015年5月～12月　刊行
定価：各巻・本体八〇〇〇円＋税
セット価格・本体四八〇〇〇円＋税
◎第1回配本　第2巻2014年9月

◆造本・体裁

四六判・上製本クロス装・函入り
各巻・平均四八〇頁　口絵写真2頁・各巻月報付
本文13級・45字詰め・18行・1段組み
装幀：工藤強勝＋勝田亜加里

バクーニン生誕二〇〇周年記念会議参加記（1）

田中ひかる

参加を決断するまでの長い道のり

二〇一四年七月一二～一三日に、ロシアのプリャムーヒノ（「プリヤムヒノ」がよく見る表記である。ここでは現地語のアクセントを尊重してこのように表記する）で開催された「バクーニン生誕二〇〇周年記念会議」に参加してきた。しかし、当初は行かないつもりだった。職業柄、いろいろな条件に恵まれているとは言え、「鎖工場」に勤務して、自分で自分を縛る「鎖」を作り続けている一人である。招待状をもらってすぐに「行こう」と決めてパリに脱出した大杉栄とは違う。出発までに文献センターに関わる方々に問い合わせをして資料を教えてもらうなど、いろいろとお世話になったので、最初に、どうやって参加を決心するに至ったのかについて述べておきたい。

この会議があるという話は、二〇一三年一一月、日本に滞在中のガブリエル・クーンさんから教えてもらった。彼と初めて会ったのは、二〇一二年八月、サン・ティミエで開催された国際アナーキスト会合のときである。その縁で彼を日本に呼び、明治大学でシンポジウムを開催することができた（なお、今年になって、このシンポジウムの報告書とも言える『グローバル・アナーキズムの過去・現在・未来』を出した）。

サン・ティミエ会合に参加してみて、国際的な集まりで交流することのおもしろさがよくわかった。そこで、ガブリエル・クーンさんが日本にいるときに、「またアナーキストの国際的な会合があれば参加したいから、何かあれば教えてください」と伝えたところ、バクーニン生誕二〇〇周年記念会議についてメールを受け取ったところだ、と教えてくれた。しかしその時は、翌年のことだから、ということであまり深く考えていなかった。

その後、生誕二〇〇周年記念会議のホームページを見つけ、日程がわかった。しかし、日程は変更するかもしれないとも書かれてあり、また、ロシア語で書かれてあるところはほとんどわからない。しかも、参加者は報告をしなければいけないらしい。だが私は、六月上旬までに作らなければいけない報告が二つあり、それ以外の仕事も山積していた。その上、日程は土日であるとはいえ、まだ学期期間中である。ゼミを一回分つぶさなければ行けないスケジュールである。「ロシア語もおぼつかないのに行ってどうなる」という声が頭の中で聞こえてくる。加えて、バクーニンの専門家のYさんからは、事情があって行けそうにない、という連絡を受け取っていた。彼が行かないのなら、私も行く必要はないだろう、と思っていた。

ところが、そのような話を、別の会合で出会ったロシア史の専門家Aさんに話したところ、「言葉がわからなくても、その人が生まれた場所で報告会に同席できれば、そこにいるだけで幸せだから、私だったら行くと思います」と言われた。そして、ロシア旅行のときによく使っている、という旅行代理店を教えてもらった。「行かない」という決心がここでぐらついた。しかし、日程を見直すと、私の職場の組合が加入している全国レベルの連合組織が定期大会を開催する日程としっかりとバッティングしている。しかも私は委員長である。やはりロシアには行かない方がよい、バクーニンより職場の組合だろう。そう思って、念のため、組合の書記さんに、そういう会議がロシアであるのだが、やはり組合のほうが大事だから、委員長である私は定期大会に行かなければなりませんよね、と確認してみた。すると彼

女は、「大会には委任状を出せば済みますから、ロシアに行ってください。ロシアのほうが大事です」と断言した。これでほぼ決定だった（その後わかったことだが、定期大会は、途中で代議員数が足りなくなり、いくつかの議案の採決ができなくなったため、一〇月に臨時定期大会を開くことになった。結局私は、そちらに参加することになった。こういうことを考えると、そもそも委任状を出すという仕組みがあったかどうかが怪しい）。

五月半ば、Aさんから教えてもらった旅行代理店に、おそるおそるスケジュールを伝えると、あっという間に旅行の概要が送られてきた。プリャムーヒノであろうが、シベリアの果てであろうが、ロシアへの旅行だったら何でもお任せください、というプロの自信が伝わってくるメールの回答だった。「やっぱり行きません」とは言えなくなった。これで完全に「外堀」が埋められた。

現地の事情を知っているかもしれないと思い、Yさんに連絡すると、なんとYさんも参加できるようになったという。現地に行ってロシア語がわからない、という問題もなくなった（実はそうではなかったのだが、これについては後述する）。こうして私は「鎖」を作るのをやめてしまった。誰一人「行くな」とは言わず、むしろ「行きなさい」と私の背中を押す人ばかりだった。

報告の作成と旅行の準備

Yさんから、報告要旨を提出した後に報告全文を送ること、という、会議の実行委員会というか、国外からの参加者とのやりとりを担当しているらしいロシア人のTさんから指示された手順を伝えてもらった。六月初旬に予定していた二つの報告の準備を済ませると、ロシアでの報告の準備に取りかかった。報告のテーマは、日本におけるバクーニンの受容史にすることにした。Yさんのようなバクーニンの専門家でもなく、ロシア語もできない私が、ロシアで報告して現地の人たちに多少とも関心を持ってもらえるとすれば、日本語でしか知り得ない情報によって構成され、何らかの形でロシアとも関わりがあり、そして、現在の日本におけるバクーニン受容もしくはアナーキズムの現状に言及した、そのような内容でなければならない、と考えた。

とりあえず、ほんとうに簡単な報告要旨を送り、詳しい内容は後から考えることにした。英語で下書きをしてMさんにチェックしてもらい何とか六月一日までにメールで送信した。次に報告の本文を作成する作業に入った。しかし、集めた文献すべてに目を通す時間がない。必要と思われる文献については、様々なかたがたから教えていただいて集めていた。これらの文献や情報すべてに言及する形で報告を作ろうと思っていた。だが、報告時間は三〇分以内である。そのため、当初考えていた内容を圧縮し、できるだけシンプルな話にしようと考えた。Mさんには、要旨の英語をチェックしてもらった際に、今度は少し長い文章の英語チェックをお願いしますよ、と予告しておいて、まずは日本語の文章作成に取りかかった。

日本でのバクーニンに関する出版は、一九六八年頃がピークで、盛んだったのは一九七〇～八〇年代までだったということが何となくわかった。また、バクーニンが戦後の日本でどのように理解されたのかということは、そういった文献からほぼ見当がついた。他方、日本語で書かれたバクーニンに関する評論としては、大杉栄が書いたものが最もおもしろかった。大杉はバクーニンを聖人扱いせず、だらしがないが憎めない、そのような人物として描いている。ロシア文学でよく扱われる人間のタイプであるから、ロシアでもこのようなバクーニン評は理解しても

らえるだろう。戦後の日本ではバクーニンの革命論やマルクス（主義）批判が注目されていたようだが、それらにくらべると、大杉のバクーニン評は異彩を放っている。だが、そこがおもしろい。報告の骨格が決まった。それ以外の諸々の情報は、せっかく集めたが、報告には盛り込むことを断念した。

報告の準備と平行して、現地への旅行の準備も進めた。といってもほとんど旅行代理店にお願いしていたのだが、プリャムーヒノへの経路や宿泊については、こちらで現地に問い合わせて確認した上で代理店に伝えなければならなかった。ロシアはヨーロッパと異なり観光でもビザが必要であり、そのためには宿泊先が決まっていなければならない。Yさん経由で教えてもらった会議のスケジュールによれば、七月一二日の早朝にモスクワの地下鉄の駅に集合し、そこからバスで五時間かけてバクーニンの生地プリャムーヒノに向かい、現地にある個人の家か学生向けの宿泊施設らしき所に一泊する、ということらしかった。メールのやりとりをしていくうちに、どうやら寝る場所や食事はあるらしいがホテルはないらしい、鉄道によるアクセスもないらしい、ということがわかってきた。

いったい自分はどこに行くのか。「プリャムヒノ」「プリャムーヒノ」という複数の日本語表記、キリル文字・ローマ字の表記を手がかりにして、インターネットで調べてみると、モスクワから北に向かってかなりの距離を走らなければたどり着けない場所であることがわかった。その先をさらに北へ北へと進めば、最後はサンクト・ペテルブルグへと至る。しかし、旅行ガイドブックにもウィキペディアにも言及がないとても小さな村のようである。ネットで検索して一番ヒットするのは、バクーニン生誕二〇〇周年記念会議のサイトである。調べてもロシア語の情報さえ少ないようなので、プリャムーヒノについて事前に知識を得ることについてはあきらめた（帰国後、よく調べれば情報はもっとあったことに気づいたがこれについては後述する）（続く）。

カフェ・ラバンデリアに山鹿泰治メニュー誕生

イベントの際に場所を提供して頂くなど、当センターも度々お世話になっている、新宿二丁目のカフェ・ラバンデリアに、山鹿泰治にちなんだメニュー「B&Cセット」が誕生しました。一九三〇年、山鹿泰治は、京都のパン屋進々堂のオーナー続木斉に誘われ、オープンしたばかりの進々堂カフェ支店の運営をおよそ半年間任されました。その時に人気だったメニューが、マグカップ・サイズのコーヒーと、進々堂特製のパン。今年、イレギュラー・リズム・アサイラムで開催された山鹿泰治展を訪れたラバンデリアのスタッフが、山鹿の進々堂時代の話に触れ、そこから着想を得て、アナキスト詩人・三島祥司さんが兵庫・夙川で経営するパン屋アミーンズ・オーブンのベーグルと、メキシコ・サパティスタ自治区産のフェアトレード・コーヒーを組み合わせた「B&Cセット」を開発。ラバンデリアで話題のメニューとなっています。新宿にお越しの際はぜひお試しください。

http://cafelavanderia.blogspot.jp/

アナキズム文献センター通信第28号
発行／2014年9月30日
発行所／アナキズム文献センター
編集／運営委員会
連絡先／東京都新宿区新宿1－30－12－302
郵便振替口座／00850－3－30010
口座名　A文献センター
Eメール／info@cira-japana.net
定価／一部100円

クロポトキン	正義と道徳　　新訂版		麻生義（訳）	黒色戦線社	197907
ゴドウィン，ウィリアム	政治の正義	財産編	はしもと　よしはる（訳）	バルカン社	196909
小川正夫評論集	性とアナキズム			小川正夫遺稿集刊行会	19740124
クロポトキン	青年に訴う	クロポトキン・パンフレット・シリーズ第１集	大杉栄（訳）	自由連合編集局	
フーリエ／プルードン	世界大思想全集　16	社團的社会主義要綱・労働者階級の政治的能力	安谷寛一／石川三四郎（訳）	春秋社	19300710
マラテスタ，エンリコ	選挙戦に際して	付　マラテスタ伝		黒色戦線社	19710208
笹本雅敬	選挙について			日本アナキスト連盟	19630225
大沢正道	全体革命への序説	アナキズムを超えるために		麦社	19710315
クロポトキン	相互扶助論		大杉栄（訳）	春陽堂	19311005
秋山清	象のはなし	詩集		コスモス社 (東京)	19590715
秋山清	啄木と私			たいまつ社	19771015
玉川信明	ダダイスト　辻潤			論創社	19840530
チェ・ゲバラ，エルネスト	チェ・ゲバラ	モーターサイクル南米旅行日記	棚橋加奈江（訳）	現代企画室	19971008
スカラピーノ，R・A／ユー，G・T	中国のアナキズム運動		丸山松幸（訳）	紀伊國屋書店	19701225
玉川信明	中国の黒い旗			晶文社	19810725
松田政男	テロルの回路			三一書房	19691130
大沢正道	転生と狂気			カタロニア社	19890205
ファブリ，L	独裁と革命		添水三郎（訳）	麦社	19690830
寺島珠雄	南天堂	松岡虎王麿の大正・昭和		皓星社	19990916
後藤彰信	日本サンジカリズム運動史		白井新平（解説）	啓衆新社（東京）	19840916
秋山清	日本の叛逆思想	―アナキズムとテロルの系譜―		現代思潮社	19601130
大門一樹	盗みの考現学			現代評論社	19731010
赤羽一	農民の福音（復刻・増補版）			黒色戦線社	19831201
萩原恭次郎	萩原恭次郎全集　第２巻　初期作品篇		秋山清、伊藤信吉、川浦三四郎　編	静地社	19801025
萩原恭次郎	萩原恭次郎全集　第３巻　散文篇		秋山清、伊藤信吉、川浦三四郎　編	静地社	19821001
萩原恭次郎	萩原恭次郎全集　第１巻　詩篇		秋山清、伊藤信吉、川浦三四郎　編	静地社	19800205
萩原朔太郎	萩原朔太郎詩集		伊藤信吉・編	角川書店	19560705
向井孝（編）	叛逆頌	小松亀代吉追悼		叛逆頌刊行世話人会	19720412
大杉栄／伊藤野枝／村木源次郎／中浜鐵他	反逆者の獄中手記	大正末期から昭和初めにかけて失れたわが無政府主義者の獄中手記		黒色戦線社	19710124
大杉栄	叛逆への情熱	―わが人生観 21―		大和書房	19710310
大沢正道	反国家と自由の思想			川島書店	19700115
ホブズボーム，E．J	反乱と革命	同時代論集　Ⅱ	斉藤孝／木畑洋一（訳）	未来社	19790415
カー，E・H	バクーニン（下）		大沢正道（訳）	現代思潮社	19651031
カー，E・H	バクーニン（上）		大沢正道（訳）	現代思潮社	19650831
クランストン，モーリス	バクーニンとマルクス　架空会見記		加藤茂（訳）	日本アナキスト連盟	19660915
平井征夫	バルセロナ日記	カタルーニャとエスペラント		リベーロイ社	20030601
ルフェーブル ,H.	パリ・コミューン　上			岩波書店	1967
ルフェーヴル，H	パリ・コミューン　下		河野健二／柴田朝子（訳）	岩波書店	19680427
ミッシェル , ルイーズ	パリ・コミューン（上）			人文書院	1971
ミッシェル，ルイズ	パリ・コミューン　下	一女性革命家の手記	天羽均／西川長夫（訳）	人文書院	19720301
リサガレー	パリ・コミューン　下		喜安朗／長部重康（訳）	現代思潮社	19690315
リサガレー	パリ・コミューン　上		喜安朗／長部重康（訳）	現代思潮社	19681125
	パリ憲章			日本アナキスト連盟	19500520
クロポトキン	麺麭の略取			岩波書店	1960
『広島の歌』編集委員会	広島のうた	感想集		『広島のうた』編集委員会 (広島市・浅野図書館)	19641101
センプルーン，ホルヘ	フェデリーコ・サンチェス回想録	スペイン共産党私史	緑川かおる（訳）	柘植書房	19791110
高群逸枝	婦人戦線に立つ　Ⅰ		女性史研究会（編）		
高群逸枝	婦人戦線に立つ Ⅱ		女性史研究会（編）		
クロポトキン	仏蘭西革命史（下巻）		淡徳三郎（訳）	改造社	19310325
クロポトキン	仏蘭西革命史（上巻）		淡徳三郎（訳）	改造社	19310215

平山忠敬氏 寄贈書リスト（抜粋）

著者名	タイトル名	副タイトル	共著者	発行所 , 場所	発行年月日
宮本三郎	アナーキスト群像回想記	サブロー少年覚え帳		あ・うん	20060508
アルヴォン，アンリ	アナーキズム		左近毅	白水社	19720807
幸徳秋水／大杉栄／岩佐作太郎他	アナーキズム	現代日本思想体系 16	松田道雄（編集・解説）	筑摩書房	19631010
白井新平	アナーキズムと天皇制			三一書房	19801215
ジョル，ジェームズ	アナキスト		萩原延壽・野水瑞穂（訳）	岩波書店	19750228
バレット , ジョージ	アナキスト革命			私家版 (伊串英治)	19620710
向井孝	アナキストたち	〈無名〉の人びと		「黒」発行所	20050806
向井孝	アナキズムとエスペラント	―山鹿泰治・人とその生涯―		JCA 出版	19800315
ゴールドマン，エマ	アナキズムと女性解放		はしもとよしはる（訳）	ＪＣＡ	19780230
大沢正道	アナキズムの原理と原則				
萩原晋太郎	アナルコ・サンジカリズム			リベルテールの会	19700701
センデール，ラモン	嵐のマドリード		浜田滋朗（訳）	西和書林	19840126
安藤昌益	安藤昌益		野口武彦（責任編集・解説）	中央公論社	19711110
寺尾五郎	安藤昌益の闘い			農山漁村文化協会	19780601
大原緑峯（大沢正道）	石川三四郎	―魂の導師		㈱リプロポート（東京）	19871005
石川三四郎	石川三四郎著作集　1	論稿Ⅰ	大沢正道（編）	青土社	19781105
石川三四郎	石川三四郎著作集　2	論稿Ⅱ	大沢正道（編）	青土社	19771125
石川三四郎	石川三四郎著作集　3	論稿Ⅲ	大沢正道（編）	青土社	19780810
石川三四郎	石川三四郎著作集　4	論稿Ⅳ	大沢正道（編）	青土社	19780610
石川三四郎	石川三四郎著作集　5	パンフレット	大沢正道（編）	青土社	19780130
石川三四郎	石川三四郎著作集　6	回想	大沢正道（編）	青土社	19780410
石川三四郎	石川三四郎著作集 7	書簡	大沢正道（編）	青土社	19790730
石川三四郎	石川三四郎著作集　8	自叙伝	大沢正道（編）	青土社	19771010
小野十三郎	歌と逆に歌に	わがパテリエ		創樹社	19730825
伊藤ルイ	海の歌う日	大杉栄・伊藤野枝―ルイズより		講談社	19851030
都築忠七	エドワード・カーペンター伝	人類連帯の予言者		晶文社	19851115
江西一三	江西一三自伝	労働運動一筋の生涯		江西一三自伝刊行会	19760501
石川三四郎	エリゼ・ルクリュ	思想と生涯		國民科学社	19480925
マーティン，チャールス	〝科学〟から自由へ	自由社会のために	遠藤斌（訳）	地六社	19650520
マーティン，チャールス	科学から自由へ	自由社会のために	遠藤斌（訳）	地六社	19650520
ホブズボーム，Ｅ．Ｊ	革命家たち	同時代論集　Ⅰ	斉藤孝／松野妙子（訳）	未来社	19781115
喜安朗	革命的サンディカリズム	パリ・コミューン以後の行動的少数派		河出書房新社	19720131
クロポトキン	革命の研究	クロポトキン・パンフレット・シリーズ第２集	大杉栄（訳）	自由連合編集局	
ドブレ , レジス	革命の中の革命		谷口侑（訳）	晶文社	19671120
オーウェル，ジョージ	カタロニア讃歌		都築忠七（訳）	岩波書店	19920518
小海英二	ガルシーア・ロルカ評伝			読売新聞社	19810110
辻まこと／武林無想庵／小野庵保蔵／菅野青顔他	虚無思想研究　　下		大沢正道（編）	蝸牛社	19751220
辻潤／新居格／石川三四郎／松尾邦之介他	虚無思想研究　上		大沢正道（編）	蝸牛社	19750920
板垣哲夫	近代日本のアナーキズム思想			吉川弘文館	19960310
伊藤信吉	逆流の中の歌	―詩的アナキズムの回想―		七曜社	19631120
ギュイヨー	義務も制裁もなき道徳		長谷川　進	岩波書店	19540303
大杉栄	クロポトキン研究			麥人社	1948125
クロポトキン	クロポトキン全集　第１巻	一叛逆者の言葉／新しき時代他	石川三四郎（訳）	春陽堂	19290515
クロポトキン	クロポトキン全集　第 12 巻	倫理学・その起源と発達	八田舟三（訳）	春陽堂	19280930
ベルクマン，A	クロンシュタットの叛逆		小池英三（訳）	麦社	19690920
リード，ハーバート	芸術の意味		滝口修造（訳）	みすず書房	19590325
リード，ハーバート	藝術論集		増野正衛／飯沼馨／森清（訳）	みすず書房	19570130
ウォード，コリン	現代のアナキズム		西村徹／ビリングズリー，Ｐ（訳）	人文書院	19771220